



日本防災士会 秋田県支部だより

「昇龍興年」

◆年頭のあいさつ

日本防災士会 秋田県支部長

渡辺 勝治



新年が会員の皆様に取りまして良い年でありますようにお祈り申し上げます。

平成23年度の活動の一つは、テーブルミーティングを北部・中央で終了でき、また、北部にあつては、『北部地区郵便局長会研修会の一環としてAEDを中心とした防災研修』を実施できました。会員皆様のご協力に心から感謝申し上げます。

平成24年度は辰年であり、『昇龍興年』の言葉が最も相応しいと思うところであります。あの、『3.11の東日本大震災の被災された皆様が、地上から早天にたくましく昇る龍のように』力強い復興の元年になりますことを祈願するところであります。

私見ですが東日本大震災の津波で助かった地域の方々の事例をテレビで拝見しました。印象に残ったのは『津波警報が出た際は、必ず指定された高台に避難していました。当日も同様に避難したことにより命が助かった。』とのことでした。こうした防災に対する意識の高さは、1回や2回の避難訓練で築かれるものではないと思います。長い間の地域住民の努力の上に築かれたコンセンサスによると思います。

ここに防災士としてのそれぞれの地域にあつて取り組む、息の長い防災・減災の啓蒙活動の原点があるのではないかと思います。

平成24年度は事務局長報告にもあるとおり『秋田県からの依頼による自主防災組織の立ち上げ・フォローアップ指導等』に係わることが予定されております。このように今後、防災・減災に係わる指導・研修等が予想されます。こうしたことに会員が応えられるように『防災士としての知識・技能の研鑽ができる場』を事務局を中心に設けますので会員皆様のなお一層のご協力をお願いいたします。

そして、日本防災士会秋田県支部が「昇龍興年」に相応しい活動の年になりますように念願し、念頭の挨拶とします。

《創刊号で紹介できなかった役員を紹介します》



幹事 嵯峨 泰典(秋田市) 職業:郵便局長

コメント 今回の東日本大地震で「防災の心得」を痛切に感じております。

心得があることにより何か人の役に立つことができると信じております。

◎ 23年度事業の紹介

【北部地区テーブルミーティング】



8月6日(土) 1100～北秋田市のホテル松鶴において、23年度計画事業のテーブルミーティングを内山副支部長の計画で開催いたしました。副支部長はじめ北部地区の会員の皆様に加え支部長以下3名が秋田市から参加し計10名の参加人員で行いました。初めて顔を合わす人たちが多かったので、まずは自己紹介から進めその後質疑応答に入りました。質疑応答では、発足に当たっての立ち上げ時の質問から始まり、最後の方ではまだ県支部に加入していない方の入会方法や今後研修会等への派遣要請の際の要領など積極的な意見が多く発言され、和気あいあいと中身の濃い第1回目のテーブルミーティングを終了することができました。(小助川)

【秋田市防災訓練】

9月1日(木) 1100～秋田港セリオンイベント広場で実施された平成23年度秋田市総合防災訓練に支部長以下2名が参加しました。訓練は秋田市自主防災組織連絡協議会と合同で初期消火及び煙中体験訓練を秋田市消防の指導の下行うものでした。訓練内容は初歩的なものでしたが、今年は2年目、今後3年4年と訓練参加を通じて行政及び市民に防災士会をアピールできれば幸いと感じた訓練でした。来年度は県防災訓練や各市町村の防災訓練に積極的に参加していきたいと思えます。会員各位の積極的な参加をお願いいたします。

(小助川)



【中央地区テーブルミーティング】



10月22日(土) 0900～アキタパークホテルにおいて、第2回目のテーブルミーティングを柴田副支部長の計画で開催しました。防災士会会員の他、秋田県中部郵便局長会会員の方々の参加を得て25名で行いました。第1回目の北部地区での反省を踏まえ、秋田市消防から講師を招致して普通救急救命講習を行い、その後食事をしながらミーティングを行いました。救命講習は3組に分かれて実施し、各組とも消防職員のユーモアたっぷりの指導にのせられ充実した講習を終えることができました。ミーティングではなかなか盛り上がりず「やっぱり酒がないとだめかなー(岡部氏)」の声も聞こえました。次回は、考えたいと思います。(小助川)

【北東北支部連絡協議会の設立総会】

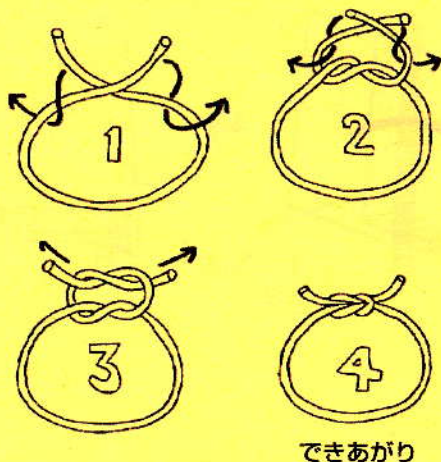
12月3日(土) 1500～青森市本町の句亭「浜町」において開催された「北東北支部連絡協議会の設立総会」に支部長以下2名が参加しました。会の参加者は、日本防災士会の理事2名、北東北3県の各支部長が参加した他、青森県支部の役員、来賓等合わせて27名でした。会は事前の調整に基づき役員編成及び規約の了承を経て、めでたく設立の運びとなりました。初代会長には、青森県支部長の工藤淳氏が、秋田県支部長は副会長に選任されました。今後不足している事項については逐次に修正していく予定です。また、お互い困ったことがあったならば、連絡を密にして相互に補って行きたいと思っています。その際は、会員各位の協力をお願いいたします。(小助川)



いろいろなロープ結び

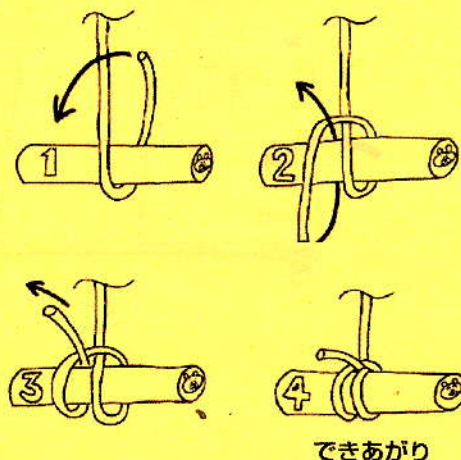
★本結び★

- ▶ 同じ太さのロープをつなぐときに使う結び方です。
- ▶ 結び目の引っ張り方を変えると簡単にほどくことができるので、救急隊の三角巾などでも使う結び方です。
- ▶ 最後にひもの端をもう一度縛ると、さらにほどけにくくなります。



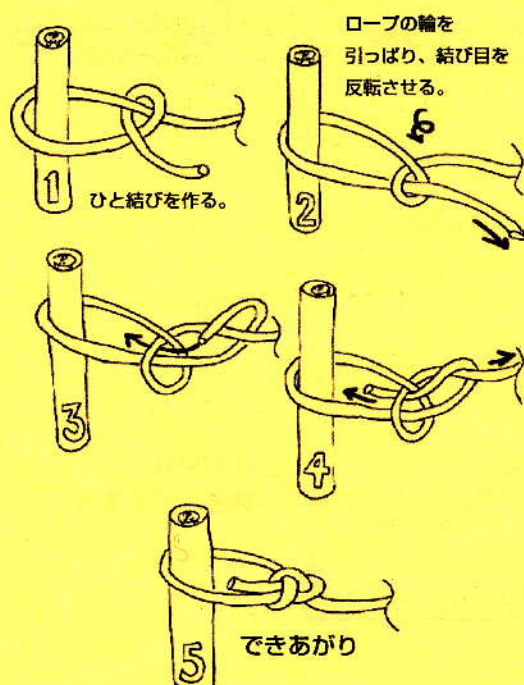
★巻き結び★

- ▶ ロープを固定するとき、すばやく結べる結び方です。
- ▶ また、物を持ち上げるときにも利用できます。
- ▶ 最後にひもの端をもう一度縛ると、さらにほどけにくくなります。



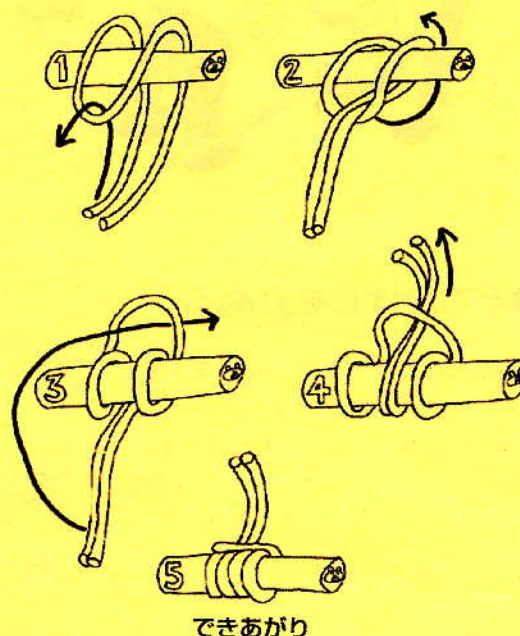
★もやい結び★

- ▶ 輪を作る結び方。災害現場で自分の身を守る命綱などに使用される結び方です。
- ▶ 木などの固定物にロープを結ぶときにも活用できます。
- ▶ 最最後にひもの端をもう一度縛ると、さらにほどけにくくなります。



★プルージック結び★

- ▶ 通常太いロープに細いロープを結びつけます。
- ▶ 細いロープをゆるめるときは自由に移動し、細いロープを張れば、結び目がしまって移動しなくなります。

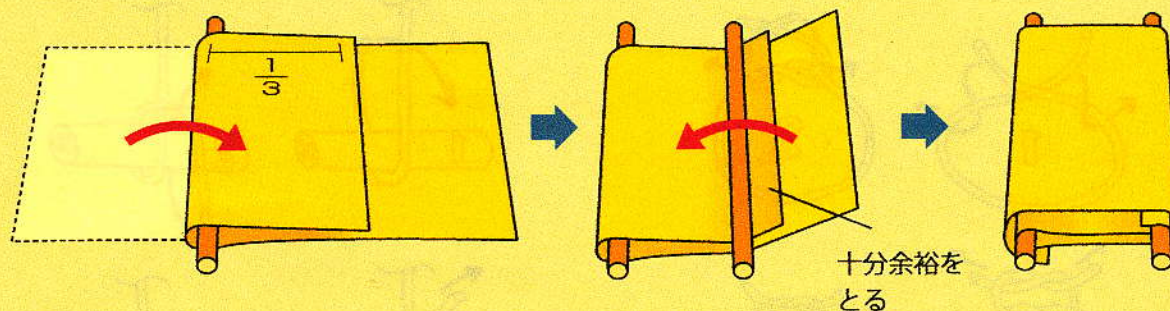


応急担架の作り方

動けない人を運ぶときは、衣類や毛布を使って応急担架を作ります。

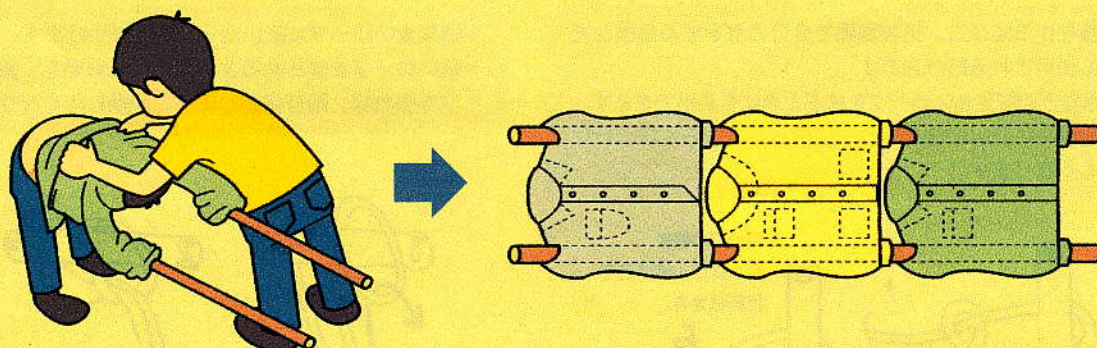
①毛布を使う

毛布の1/3のところに棒を置いて、毛布をおり返して作ります。



②上着を使う

図のように、2本の棒に上着（5着以上）を通します。



③毛布のはしを丸める

毛布のはしを丸めて、持ちやすくしておきます。

